



## はじまいのはじまり

仲嶺 真弓

「ひととしての育ちを保障し、地域の子育て拠点を目指します

子育てをとおして大人（職員・保護者）も育ち合える保育園を、園と家族とで共につくっていきます」

これはアトム共同福祉会法人の理念です。この理念のもと、私たち職員は保育園での日々を営んでいます。その理念を実現するための具体的な取り組みは、入園時にお渡ししている保育園のしおりに、“大切にしていること、「ひと」として育つために保育で大切にしている三つの柱”で記していますので、何度も読み返していただくと嬉しいです。この考えをベースに、年間通してのクラス懇談会、園行事を予定しています。クラス懇談会は、年間6回（4・5歳児はプラス1～2回）予定しています。

### 【 第一回懇談会が終わりました 】

4月、さっそく第一回のクラス懇談会を全クラス開催することができました。どのクラスも、4月の子どもの姿から、一年通しての子どもの成長の見通しと、自己紹介がテーマでした。

子どもの話は、子どもの成長の見通しをもつことで、日々の生活が少し楽観的に考えられることもあります。子どもの世界を知って関わることと、知らないで関わるのとでは大きく違いがあります。こんなこと（子どもとの関わりに戸惑うなど）を思っているのは自分だけではないことに気付けるだけでも心の持ちようも随分変わります。関わる大人の視野を広げることで、見える子どもの姿も変わってきます。家では気づかない我が子の姿を知ることや自分とはまた違う子育てや他者の考えを知るとは、子ども理解に繋がります。ぜひ懇談会という場をそのことを知るチャンスとして活かしてもらえればと思います。

4月の懇談会は、0歳～5歳児全てのクラス懇談会に参加し、自己紹介を聞かせてもらいました。4歳児の懇談会で、「担任だけでなく、主任良太くん（前川）の自己紹介も聞きたいです。何だったら、仲ちゃん（仲嶺）もしてもらえたら」という保護者からの声掛けがあったことは、主任・園長も身近に感じてもらっていることを感じ、とても嬉しい瞬間でした。

自己紹介も各クラスで少し違いがあり、工夫がみられました。5歳児の懇談会では、前年度の懇談会の感想「人数が多いと緊張するし、話し込めないから少人数で話す時間があればいいな」という意見を活かして、二部制にして後半はグループに分かれて少人数で自己紹介をしていました。懇談会の感想は、担任が、自分たちが企画した内容の手応えを知れるとともに、次回以降の懇談会の内容を考える参考にもなるので、ぜひ感じたままを聞かせてもらえればと思います。

そして、今回の自己紹介のように懇談会中に思うことを言葉にすることが難しいという人は、パスもありです。担任は全力でサポートするので、他者の話を聞く場として懇談会を活用する参加もありです。はじまいの形はいろいろあっていい。そう思います。

0・1歳児の合同懇談会の自己紹介が一風変わっていたので紹介したいと思います。“自分を乗り物に例えると？ その理由は？”というお題でした。新幹線と例えた人もいれば、普通電車、馬車、バス、普通自動車、と例えた人もいます。ジェットコースター、観覧車、メリーゴーランド、チョロQと例えた人も。人によってイメージする乗り物のバリエーションの広さがおもしろいと感じましたが、その乗り物を選んだ理由にその人のひととなりを見せていたことに感銘を受けました。参加者の話を聞きながら、私も考えていました。自分を乗り物に例えたとしたら、南国の風景でよく目にする“水牛車”。理由は、スピード感はないけれど、泥水の中でも粘り強く前へ突き進む、目立たないけど縁の下の力持ちとしては力を発揮。マイペースで頑固者。といったところでしょうか（笑い）。

今後とも、懇談会には、年間通して主任・園長もできる限り参加し、担任とはまた違う目線でサポートしていきたいと思っています。たくさんの参加をお待ちしています。よろしくお願いします。

